

進路だより

No.3

6月に入りました。多くの企業は来春の採用数を決定し求人票の提出準備に入ります。つまり今月から本格的な就職活動には入りますので具体的に希望する企業を絞っていかねばなりません。進学に関しても学校説明会の実施や指定校推薦を含む受験実施要項が発表されます。きょうから**本気モード突入!**

資料：実務教育出版「就職指導ハンドブック」より

① 学科・一般常識試験

～高1までの基礎問題が中心～

学科・一般常識試験とは

▶ 学科・一般常識試験のねらい

採用試験における筆記試験(学科・一般常識試験)は、高校生としての知識・教養や基本的な常識が身についているかを判定しようとするものなので、問題のレベルはそれほど高くありません。中学の学習内容を中心に、小学校高学年から高1までの基礎レベルがほとんどです。

▶ 学科・一般常識試験の概要と傾向

出題内容は、国語、数学、英語、社会など、主要科目に関する基礎的学力をみるものが中心です。職種によって

は、理科や商業、工業系などの専門的な知識も試されます。どのような職種に就くにしても、国語的素養は必要であるため、筆記試験において最も多く出題されています。英語も経済のグローバル化に対応して、採用試験での出題が増えつつあります。

その他、学科以外の一般常識として、時事的な事柄や生活・文化に関する問題を出題して、社会への関心度や時代感覚を試すものもあります。

③ 作文試験

～“人となり”と“文章力”を見極める～

作文試験とは

▶ 作文試験のねらい

作文試験では、学科試験や適性試験では測ることのできない受験生の考え方、人柄などを見ます。限られた時間の面接では、受験生の人となりを十分に見極めることは困難なため、企業は、面接で実際に話してみた感触と、作文から読み取った人物像を総合して採否を判断します。

▶ 作文試験の傾向

作文試験は、示された課題について、既定の字数・時間のもとに書く場合がほとんどです。課題はオーソドックスなものを中心に、分野も限られています(右表参照)。

字数は600～800字程度、執筆時間は30～60分程度が一般的です。原稿用紙は横書きが多くなっていますが、企業によっては縦書きのところ、レポート用紙のようにA4判の紙に罫のみが印刷されているところもあります。

【就職試験に頻出のテーマ】

学校生活について	
・高校生活を振り返って	・高校生活で得たもの
・高校生活で力を注いだこと	
社会人・職業人になるに当たって	
・志望動機	・私の職業観
・こんな社会人になりたい	・会社に入ってやりたいこと
自分について	
・私のセールスポイント	・5年後の私
・最も印象に残っていること	・私が熱中していること
社会・世の中について	
・最近のニュースで関心を持ったこと	
・現代社会に望むこと	
抽象的なテーマ	
・チームワーク	・友情
・希望	・責任

④ 面接試験

～学力以外の意欲、人間性を探る～

面接試験とは

▶ 面接試験のねらい

企業は、受験生の学力以外の面を探り、バランスのとれた人材を見つけるために面接試験を行います。具体的には、人柄、ものの見方・考え方、コミュニケーション能力、仕事への意欲、などを見極めようとしています。

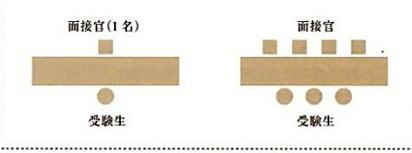
▶ 面接試験の種類

【個人面接】面接官1～3名程度に対し、受験生1名が面接を受ける形式で、試験時間は10～20分程度。高校生の就職試験では最も多い形式です。

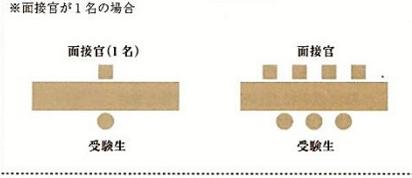
【集団面接】面接官3～5名程度に対し、受験生3～5名程度で面接を受ける形式で、試験時間は受験生の人数によって異なりますが、30～40分程度。受験生が多い場合、試験時間を短縮するために行うことが多いです。

【個人面接】

※面接官が1名の場合



【集団面接】



【グループディスカッション】6～8名程度の受験生を1グループとし、テーマを与えて自由に討論させる形式で、試験時間は30分程度が多いようです。高校生の採用試験では、あまり行われていない形式です。

「フキ」ネットワークイマジンチーム

今回は一般的な就職試験について説明します。進学する人や1・2年生も必ず働きます。これらの資料を参考にして学校生活を一生懸命に取り組んで欲しいと思います。



② 適性検査

～仕事に向いているか、活躍できそうかを測定～



適性検査とは

▶ 適性検査のねらい

採用試験における適性検査の主なねらいは、志望者がその企業の仕事内容に適應でき、十分に能力を発揮することが可能かどうかを見極めることです。採用を決定する重要な判断材料の一つとなります。

▶ 主な適性検査の概要

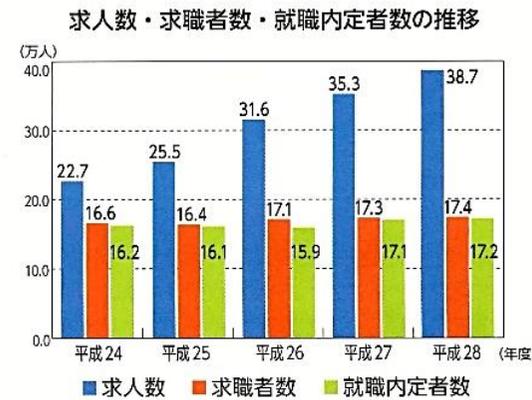
【SPI3-H】能力検査と性格検査に分けられます。能力検査ではコミュニケーション能力、数的処理能力、論理的思考能力などが測られます。問題内容は、小・中学校レベルの国語、数学(算数)とある程度重なりますが、SPI独特の形式の問題も出題されます。性格検査では、企業の求める

人材かどうかの判断基準となる受験者の考え方や行動パターンを測定します。

【一般職業適性検査】厚生労働省編集の適性検査です。多様な職業分野で仕事をする上で必要とされる代表的な9種の能力(適性)を測定することにより、適職領域を探索します。円打点、記号記入、形態照合、名詞比較、計算、文章完成などのさまざまな検査で構成されています。

【クレペリン検査】1けたの数字の足し算を1分ごとに行為を変えながら行うという、単純な作業を続ける検査です。受験者の能力や、作業時の性格・行動の特徴を把握します。

今、高卒就職市場はこうなっている



平成28年度の高卒就職市場の動向について、毎年、厚生労働省から発表されている調査を基に簡単に説明します。本調査は、学校やハローワークからの職業紹介を希望した生徒を対象としており、民間企業への就職の実態を数値から見るすることができます。

これによると、景気が上向きであることを受けて近年増加傾向にある求人数は、平成28年度は約38万7,000人で前年同期比9.7%の増加となりました。一方、求職者数は約17万4,000人(同0.5%増)とほぼ変わらなかったため、求人倍率は2.23倍(同0.19ポイント増)と、平成7年3月卒以降、最高となりました。



平成29年3月末現在での就職内定者数は、約17万2,000人(同0.6%増)だったため、就職内定率は99.2%(同0.1ポイント増)と、昭和63年3月卒の調査開始以降、過去最高となっています。

左の過年度推移からもわかるように、この5年間は求人・内定状況とも右肩上がりとなり、**売り手市場が続いています。**高校生の就職市場は好調であると言えるでしょう。

※出典：厚生労働省「平成28年度 高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・内定状況」

PTA 総会へのご参加ありがとうございます。当日配布致しました進路資料には平成29年度の進路状況を詳しく書いています。もう一度お読みいただき進路選択の参考にして下さい。